

5歳児健康診査（5歳児健診）について

令和7年7月30日
ネウボラ課

1. 健診の目的

幼児期において幼児の言語の理解能力や社会性が高まり、発達障害が認知される時期であり、保健、医療、福祉による対応の有無が、その後の成長・発達に影響を及ぼす時期である5歳児に対して健康診査を行い、こどもの特性を早期に発見し、特性に合わせた適切な支援を行うとともに、生活習慣、その他育児に関する指導を行い、もって幼児の健康の保持及び増進を図ることを目的とする。（母子保健医療対策総合支援事業実施要綱から抜粋）

2. 健診開始までの経緯

- ・令和5年6月13日閣議決定 こども未来戦略～次元の異なる少子化対策の実現のための「こども未来戦略」の策定に向けて
- ・令和5年11月22日 第2回こども家庭審議会成育医療等分科会「乳幼児健診について」
- ・令和5年12月28日 こ成母第375号 母子保健医療対策総合支援事業（令和5年度補正予算分）の実施について
- ・令和6年3月29日 保医発0329第3号 5歳児健康診査の実施に当たって求められる地域のフォローアップ体制等の整備について
- ・令和6年3月29日 5歳児健康診査マニュアル
- ・令和6年6月21日 母子保健医療対策総合支援事業（令和5年度補正予算分）の実施について
- ・令和6年度 母子保健衛生費国庫補助金（令和5年度補正予算）に係るQ&A
- ・市では6年度当初予算に計上し、令和6年4月から5歳児健診を開始した

3. 対象児童

- ・規定では、4歳6か月から5歳6か月の児童
- ・市では、5歳の誕生月に受診するように事前通知をしている。
- ・事前の通知は、健診の1か月前に通知している。

4. 実施体制

- ・悉皆健診（集団健診）
- ・スタッフ 事務1、保育士4、看護師6、保健師6～7、心理士2、歯科衛生士1、栄養士1、常勤保健師2 （すべて人）
- ・健診の流れ・・・【資料1-3】
スタッフ事前カンファレンス

受付→栄養士集団指導→(歯科衛生士の講話をしながら)小集団→小集団振り返りカンファレンス→問診→目の検査(SVS)→身体計測→診察(小児神経科医、小児科医、内科医)→(問題等なしの場合)→保健師相談→(希望者に)栄養相談や歯科相談を実施(心理相談を受ける場合)SDQアンケート→心理相談
スタッフ事後カンファレンス

5. 5歳児健診後のフォロー

- ・医師の紹介状を発行し、専門医療機関へつなげる。
- ・医師の意見書を発行し、療育へつなげる。
- ・心理相談、ことばの相談へつなげる
- ・ひまわり教室を案内し、発達の経過観察を行う。
- ・保育園等と連携し、発達の経過観察を行う。
- ・保健師が電話により経過を確認する

6. 実績

	対象 児数	受診 児数	受診率 (%)	当日 心理 相談	意見書	療育 利用 中	ひま わり 誘い	後日 心理 相談 予約	こと ばの 相談 予約	電話		
										保護者	保育園・幼稚園	その他
4月	61	47	77.0	10	1	4	1	0	1	6	3	
5月	67	58	86.6	10	2	5	1	3	1	5	3	1
6月	58	58	100.0	6	1	4	1	2	1	6	0	
7月	71	61	85.9	11	4	2	0	6	2	5	4	0
8月	61	61	100.0	12	3	4	4	3	1	9	2	
9月	57	51	89.5	11	5	6	1	1	1	2	0	
10月	58	71	122.4	11	5	6	1	2	1	8	1	
11月	57	56	98.2	7	5	9	2	1	0	6	0	0
12月	60	52	86.7	7	3	4	2	4	1	6	4	
1月	57	54	94.7	9	5	3	2	4	1	3	0	
2月	56	48	85.7	9	2	4	3	5	1	0	1	0
3月	46	54	117.4	11	2	4	0	0	1	6	5	
計	709	671	94.6	114	38	55	18	31	12	62	23	1

7. ひまわり教室について（令和 6 年 6 月から実施）

（1）目的

- ① 5 歳児健診後のフォローとしての経過観察及び必要な児に対し、早期に療育や医療につなぐことができる。
- ② 保護者へ児とのかかわりの助言を行う。
- ③ 療育が始まるまで利用でき、スムーズに療育につなげることができる。

（2）対象者

- ・ 5 歳児健診において、心理士がひまわり教室に誘う必要があると判断したケース
- ・ 5 歳児健診後の心理相談において、心理士がひまわり教室に誘う必要があると判断したケース
- ・ 療育が必要だが保護者の理解が得られないケース
- ・ 療育が必要か否か、判断がつかめないケース

（3）開催日・開催場所・体制

- ・ 月 1 回 15 時から 16 時まで
- ・ 欠席を含めて 5 回で終了となる。
- ・ 南子育て世代包括支援センター内、つどいの広場で実施
- ・ 保育センターの協力をいただきながら運営

（4）ひまわり教室実績

- ・ 8 回実施

	6/3	7/1	9/2	10/7	11/5	12/3	2/3	3/4
人数(人)	2	2	4	5	5	6	7	5

- ・ 実人数 14 人 延べ人数 36 人（児の人数）

（5）ひまわり教室の課題

- ・ ひまわり教室後の児の評価、フォロー体制の確立が今後の課題。
- ・ 保護者への支援をどのように行っていくか
- ・ 保育センターの協力をいただいているが、今後もその体制を継続していくのかどうか検討が必要

8. 5 歳児健診の課題等

- ・ 心理相談の待ち時間が長く、健診全体に時間がかかってしまう。
- ・ 次心理相談を予約するにしても、2 から 3 か月程度要する。
- ・ スムーズな療育への誘導やひまわり教室の在り方など、フォロー体制の整備を検討する必要がある。
- ・ 保育園、幼稚園への理解と連携体制の構築
- ・ 療育との連携、就学相談等との連携体制を今後構築していくことが課題となる。